

平成 20 年度電気学会高校生懸賞論文コンテスト講評

電気学会電力・エネルギー部門
編修委員会委員長
原口 芳徳

高校生懸賞論文コンテストは今年度で2年目を迎えました。今回は全国の高等学校、工業高等専門学校14校から、論文82編を応募いただきました。厳正な審査の結果、下表のように最優秀論文1編、優秀論文2編、佳作3編を選考するとともに指導者賞として優秀な応募論文の多い学校を指導いただいた先生1名を選出しました。

この論文コンテストは、高校生に電気エネルギー技術を身近なものと感じ、我が国の基盤を支える重要な技術であること、未来を拓く有望な技術であることを理解いただき、電気工学を学ぶ契機になることを期待して始めました。

応募いただいた論文は、論旨の展開、独創性、発展性、客観性など幅広い観点から評価して1次、2次審査を実施しました。

多くの論文は、予め提示した参考となる文献やホームページ、科学館などの施設を調査して論文としてまとめたもの、学校であるいは自ら実験・観察して結果を考察したものです。内容は、新・省エネルギーそして環境問題に関する論文が多くを占めています。風力発電、太陽光発電はもちろんごみ焼却発電、マイクロ水力発電など興味深い論文やユニークな論文もありました。中には、超電導、原子燃料に関する専門的な論文も見受けられ、勉強されている様子も伺われました。審査委員の役得で楽しく、興味深く拝読させていただきました。

評価の高い論文は、高校生なりの視点や考え方で課題を捉え、積極的に自分の意見を述べているものでした。とうてい実用化は困難と思われるような提案もありました。しかしこれも高校生らしい柔軟な発想によるものとして、評価された論文もありました。ただし、良くまとめられているものの主張がない論文の評価は高くありませんでした。

今回、論文を審査する中で、現代の高校生が電気エネルギーの技術や課題に対しどのように考えているのか読み取ることができました。また、我々電気学会の会員が若者に電気エネルギーについて分かり易く伝えていくことの重要性を再確認した論文審査でもありました。

論文を応募された高校生の中から将来電気学会で活躍するような研究者、技術者が現れることを願っています。そして3月14日の表彰式で受賞した皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

論文募集の周知方法、募集開始と締め切りの時期、選考方法などにまだ反省すべき事柄があるため21年度は改善をはかり、さらに盛り上がりのある高校生懸賞論文コンテストにしていきたいと思っております。21年度は6月頃にご案内する予定ですので、より多くの高校生に応募いただくよう関係者のご協力をお願いいたします。

本コンテストの企画・推進にあたり、共催のパワーアカデミー（電気事業連合会）ならびに多くの論文審査委員の皆様にご支援、ご協力をいただきました。感謝申し上げます。